

日本语

同形異義詞辨異



张 紘 编著 伊藤和幸 审校

北京师范大学出版社

41.592
592

日 本 语

同形异义词辨异

张 絃 编著

伊藤和幸 审校



北京师范大学出版社

11111115

日语同形异义词辨异

张 絃 编著

伊藤和幸 审校

北京师范大学出版社出版

新华书店北京发行所发行

北京外文印刷厂印刷

*

开本: 787×1092 1/32 印张 4.625 字数: 90千

1983年6月第1版 1983年6月第1次印刷

印数: 1—25,000

统一书号: 9243·20 定价: 0.50元

序

およそ言語というものが、音声と意味の結合によってなりたつ一種の信号系統であるとするならば、単独で運用される最小の信号単位である単語を考察の対象とする語彙学は、言語研究の重要な一領域である。さてその語彙学において、研究対象として、単独でセンテンスの成分となりうる単語にもまして重要なのは、それらの独立した概念の間の関係性を示すはたらきをもつ単語である。孤立語の典型とされる漢語にあってさえ、それらは〈虚詞〉、〈助字〉などとよばれて、語学者たちの特別の関心をひいてきた。清の王引之の《経伝釈詞》、劉淇の《助字辨略》、近くは楊樹達の《詞詮》、楊伯峻の《文言虚字》などは、その方面のすぐれた業績として人びとのよく知るところである。

膠着語である日本語にあっては、関係性を示す単語、漢語のいわゆる〈虚詞〉の類のはたす役割の重要性は、おそらく漢語の比ではない。（たとえば、漢語で「你死我活的斗争」とだけいうところを、日本語では、少なくとも、「食うか食われるかの闘争」といわなければならないなどはその証左のひとつ）

本書の編者は、この点に着目して、日本語における〈虚詞〉、その中でも特に興味深い〈同形異義〉の〈虚詞〉を考察の対象にえらんで分析をおこなった。この試みは、限りない知的興味をそそるが、編者は、この作業が高踏的に流れる

のを警戒して、結果的には、日本語の初学者である読者にも有用なように、ハンド・ブックの形式で考察の成果を提供された。この編者の配慮を、一読者としてわたくしもありがたく思うものである。

以下に、日本語を母国語とするものとして、中国の読者に留意していただきたい若干の問題点について述べておく。

本書は《日本語同形異義詞辨異》と名を定められた。この具体的な命名に問題点がおのずから示されている。

その一、音義問題。およそ言語において、音声とその意義には大きな相関性が認められることは、ほとんど常識である。中国でも早く後漢時代の言語学者は、ことにもこのことに敏感であつたらしく、劉熙は《釈名》において、この音義相関主義を徹底的に運用している。表音文字〈かな〉で表記される日本語の〈虚詞〉にあつては、〈同形異義詞〉とはすなわち〈同音異義詞〉である。読者は、本書でとりあげられた個々の〈虚詞〉について、その意義と音声上の効果に関して敏感であつてほしい。そして、同じ音声の語がいかなる過程を経て意義に分岐を生ずるかという点についても熟考をわずらわしたい。

その二、詞性問題。本書の眼目のひとつは、語の〈辨異〉すなわち具体的には品詞の辨別にある。編者は、いかなる根拠で、また、いかように品詞分類をおこなっているかに留意されたい。周知のように、ある種の単語については、論者によって品詞への帰納のしかたがことなるものがある。そうして、もっとも熟考をのぞみたいことは、意義の演変と詞性の分岐の分析である。われわれの前に個個別別に陳列された同一単語の各種の用法は、最初から互に独立したそれぞれの意

義と用法にわかれていたものではなく、かならずや、核となる意味から順次に発展変化したものである。

その三、雅俗問題。本書には、豊富な用例が収集されているが、本書の性質上、用例には日常生活ではほとんど使われることのない文語あるいは古語（たとえば、「なり」の項の「徳は本なり」）と、その反対に、きわめて日常的あるいは卑俗な表現（たとえば「さ」の項の「それからさ」）が混在している。読者は、用例に附せられた中文訳によって、基本的にはその区別を辨别できるであろうが、特に本書を作文ないし実際の会話中に応用しようとするときには、この点に充分の注意が必要である。

本書の出版は、出版そのものが日中友好の具体的実践のひとつとして、日本人であるわたくしはうれしく思う。本書が、日中両国人民の真の友好、その前提としての真の相互理解のために、またひとつのたしかな拠りどころとなることを心から希望する。

日本大阪女子大学助教授 横山 弘

一九八二年九月

北京師範大学にて

序

(译文)

一般说来，如果说语言是由音声和意义所构成的一种符号系统的话，那么，把单独运用的最小的符号单位的单词，做为考察对象的词汇学，则是研究语言的一个重要的领域。在词汇学中，做为研究的对象，比单独构成句子成分的单词更为重要的，乃是在表示独立概念之间的相互关系上起作用的一些单词。即使是典型的孤立语的汉语，也把这一类的单词称之为〈虚词〉、〈助字〉，而一直引起语学家们的特别关注。清代王引之的《经传释词》、刘淇的《助字辨略》、近代杨树达的《词诠》、杨伯峻的《文言虚字》等，在这一方面所做出的卓越贡献，乃是深为人们所知道的。

在粘着语的日语中，其表示相互关系的单词，比起汉语的所谓〈虚词〉之类所起的作用，其重要性恐怕是非汉语所能比拟得了的吧。（例如：在汉语中只用“你死我活的斗争”的说法，在日语中则至少要说成是「食うか食われるかの闘争」，〔在“你死”、“我活”之间并不需要有虚词，而日语中附有・记号的是虚词部分。——译者注。〕这就是一个具体的证据。）

本书的编者，从这一着眼点出发，选择了日语的〈虚词〉，特别是其中深有趣味的〈同形异义〉的〈虚词〉，做为研究的对象，进行了分析。这一尝试，会广泛地引起知识方面

的兴趣。编者在从事这一工作当中，为了避免流于高雅，脱离通俗，而采取了以手册的形式来向读者提供自己所研究出来的成果。做为一个读者的我，对编者的这一煞费苦心的做法，感到非常难能可贵。

下面我想从日语做为自已祖国语言的角度，提供几点个人看法，供中国读者在翻阅本书时应该留意的若干问题，做为参考。

本书定名为《日本语同形异义词辨异》在这一具体的命名中，已经是很自然地表示出了书中内容的着重点。

其一：音义问题。一般说来，语言中可以看到，在音声与意义上具有着很大的关联性，这几乎乃是一个常识。中国早在后汉时代的语言学家，对这一问题似乎就是非常敏感的。刘熙在《释名》一书中，彻底运用了这一音义相关的观点。在使用表音文字〈假名〉所标记的日本语的〈虚词〉来说，〈同形异义词〉就是〈同音异义词〉。对本书中所举出的每个〈虚词〉，关于它的意义和音声上的效果，希望读者要注意领会。

其二：词性问题。本书所论述的重点之一，词的〈辨异〉，也就是对品词的具体的辨别。编者是用怎样的根据、以及是怎样进行着分类，这一点希望读者要加以留意。对于某种单词，根据论者不同的看法，有时对品词会有着不同的归纳。希望读者要深思熟虑的，就是要对词意的演变和词性的区别加以分析。在我们的面前所排列着的每一个同一单词的各种用法，并不是从一开始时就分成了各个不同的意义和用法的，而必定是由它的核心意义逐渐发展变化而形成的。

其三：雅俗问题。本书中收集了丰富的例句。但根据本书的性质，在例句中混杂着在日常生活中几乎已不再为人们所使用的一些文言或古语（例如：「なり」项中的「徳は本なり」

(“德者本也”)，或与此相反，有些则属极其日常的或通俗的语言表现(例如：「さ」项中的「それからさ」(以后嘛)。其区别，读者可根据所附的中文翻译词句基本上可以辨别出来的，但在应用本书作为写作文章以及实际会话时，对这一点是需要充分加以注意的。

本书的出版本身，就是日中友好的一个具体实践。对于这一点，做为一个日本人，我感到非常高兴。为了达到日中两国人民的真正友好，和做为它的前提的真正相互理解，衷心希望这本书能够成为它的又一确实可靠的依据。

日本大阪女子大学副教授

横山 弘

一九八二年九月于北京师范大学

编者的话

日语中有许多词，在形态上相同，而在品词的种类上并不相同；有的即使是同一种类的品词，而在意义上则又完全不同；对这一类的词，可简称之为“同形异义词”。如何区分和辨识这类同形异义词，是词义学研究中的重要课题之一。

同形异义词中，包括有“实词”与“虚词”两种。我们知道：“虚词”乃是不能单独成句，意义比较抽象，只能起帮助造句作用的一些词。因此，“虚词”的同形异义词，就更加不容易区分和辨识了。例如：从外形上看来，同样是一个「が」，但由于其前后的接续关系和它在整个句中所处的地位不同，其所属的词类亦不同，因而所表达的意思也就完全不同了。它可能是格助词，可以表示主语，也可以表示希望、好恶、能力等的对象语；还可以表示所属关系的定语；也可能是接续助词；还有可能是接续词。（见本书中「が」条诸例。）如何区分这些不同的用法和不同的接续关系，特别是如何正确地辨识它是属于哪一种类的品词，这对准确地理解原文词意起着很大的作用。那么，“虚词”之中，究竟具体地包含有哪些品词呢？在日本语语法上，并不是按“实词”与“虚词”分类，但从语言学研究范畴来说，日本把整个日本语的单词，按每个单词本身所具有的性质，从文法上归纳为「詞」与「辞」两大类。詞：是指表示一个具体的概念，单独可以构成文节，并可以构成句中的成分，被称为：観念語、言、実辞、独立語、自立語的一些单词。辞：是指单独不能构成句中的成分，必须与「詞」相结

合时，才能表达出具体的思想内容，被称为：形式語、虚辞、付属語^{けいしきご きよじ よぞくご}的一些单词。某些语法学家认为：「辞」^じ的具体内容，应包含有：助词、助动词的大部分和陈述副词、接续词以及感动词等品词（请参阅新村出编《广辞苑》和金田一春彦、池田弥三郎编《学研国语大辞典》以及《新明解国语辞典》中的有关词条——编者）。根据上述观点来看，日本语言学中的「詞」与「辞」^じ同汉语词法中的“实词”与“虚词”，二者之间的含意是极为相似的。本书主要是对一些同形异义的“虚词”，即「辞」^じ部分进行分析和研究，其中包括少数在性质和所起的作用上非常近似虚词的实词。如：「あげる」、「する」、「こと」、「ところ」一类的动词和形式体言；我们认为这应该把它看作是日语与汉语在词汇的结构上所存在的一个不同的特点。

本书共收集了同形异义词七十一条，对其每个词的所属词类以及其所表达的不同意义和不同用法，均尽可能地通过例句进行了比较和说明，这对帮助初学者正确辨识和运用这些容易混淆的词类，有一定的参考价值。但由于编者本人水平有限，其中错误或不妥之处在所难免，请广大读者予以批评指正。

本书原系编者在教学中编写的资料。编写时，主要参考了平野昌夫先生著的《国語ハンドブック》一书及国内出版的一些日语语法书籍。在此次整理过程中，受到在北京师范大学外语系工作的两位日本专家——横山 弘副教授和伊藤和幸先生的热情帮助，特别是横山先生还为本书写了序，对此表示衷心的感谢。

编 者

一九八二年九月于北京师大

目 次

☆一、あげる	(1)
☆二、あまり	(2)
☆三、ある	(4)
☆四、あるいは	(6)
☆五、いかにも	(6)
☆六、いくら	(7)
☆七、う	(9)
☆八、か	(10)
☆九、が	(13)
☆十、から	(15)
☆十一、けれど (も)	(22)
☆十二、こと	(23)
☆十三、さ	(27)
☆十四、さえ	(29)
☆十五、させる (せる)	(31)
☆十六、さて	(32)
☆十七、し	(33)
☆十八、する	(35)
☆十九、せっかく	(39)
☆二十、そう	(41)
☆二十一、そこで	(43)
☆二十二、そして	(44)

☆二十三、そっくり	(45)
☆二十四、それから	(46)
☆二十五、それで	(47)
☆二十六、それに	(47)
☆二十七、た	(48)
☆二十八、だ	(50)
☆二十九、たい	(51)
☆三十、 だけ	(51)
☆三十一、だろう	(54)
☆三十二、ちよっと	(55)
☆三十三、つつ	(56)
☆三十四、で	(58)
☆三十五、ても	(61)
☆三十六、でも	(62)
☆三十七、と	(65)
☆三十八、ところ	(69)
☆三十九、とも	(75)
☆四十、 な	(78)
☆四十一、ない	(80)
☆四十二、なお	(81)
☆四十三、ながら	(82)
☆四十四、なに	(84)
☆四十五、なり	(85)
☆四十六、に	(88)
☆四十七、には	(94)
☆四十八、ね (ねえ)	(95)
☆四十九、の	(97)

☆五十、	ので……………	(99)
☆五十一、	のに……………	(100)
☆五十二、	ば……………	(101)
☆五十三、	ばかり……………	(102)
☆五十四、	へ……………	(104)
☆五十五、	ほど……………	(105)
☆五十六、	また……………	(107)
☆五十七、	まで……………	(108)
☆五十八、	も……………	(110)
☆五十九、	もう……………	(111)
☆六十、	もっとも……………	(112)
☆六十一、	もの……………	(112)
☆六十二、	ものの……………	(116)
☆六十三、	や……………	(117)
☆六十四、	やら……………	(119)
☆六十五、	よ……………	(120)
☆六十六、	よう……………	(121)
☆六十七、	よく……………	(125)
☆六十八、	より……………	(127)
☆六十九、	らしい……………	(129)
☆七十、	れる (られる) ……	(130)
☆七十一、	を……………	(131)

☆一 あげる

一、动词

1. 相当于汉语的①举起、抬起、悬起、扬起。②抬高、提高、提升、增加。③（油）炸等意思的动词。

て
手をあげる。

举手。

に もつ たな うえ
荷物を棚の上にあげる。

把携带的东西放到（行李）架子上。

ね だん
値段をあげる。

提高价格。

いちねん いち どきゆりよう
一年に一度給料をあげる。

一年增加一次薪金。

あぶら
（油で）てんぶらをあげる。

炸（鱼虾）油炸物。

2. 表示自谦的敬语。＝授受动词「やる」「あたえる」的客气说法。

おすきならあなたにあげましょう。

如果您喜欢的话，那么就送给您吧。

この本は王さん（ほん おう）にあげるものです。

这本书是送给老王的。

二、接尾词

1. 接在「申す」「存ずる」「願う」「伺う」等特殊动词的连用形下面，表示说话人对所加给对方某种动作（行为）的谦虚态度。

あつ おんれい もう
厚く御礼を申しあげます。

深致谢意。

おしどう ねが
御指導をお願いあげます。

请予指教。

2. 接在一般动词的连用形下面，表示完成（彻底做完）该动词的动作。

か
書きあげる。

写完。

しこと げつまつ し
この仕事は月末までに仕あげる。

这项工作到月底完成。

三、补助动词

接在「动词连用形＋て（で）」的下面，用以谦逊（客气）地表示自己所加给对方动作（行为）。

しんぶん よ
新聞を読んであげます。

「我来」给您读报。

かわ けむ
皮を剥いてあげましょう。

「我来」给您削「水果」皮吧。

☆二 あまり

一、副词 表示程度，意思是：

1. (不) 怎样（＝たいして，それほど）

あまりきれいではない。

不怎么漂亮。

あまり寒く（は）ない。

不〔算〕怎么冷。

あの人（ひと）はあまりかしこくない。

那个人不怎么聪明。

句型：「あまり……（否定句）」——不怎么……，不太……。

2. 太、很、过于 (= ひじょうに)

あまり高^{たか}いから、買^かわなかった。

因为太贵，所以没有买。

あまり (に) 寒^{さむ}いので、日曜日^{にちようび}でも、たいした人出^{ひとで}がなかったのだ。

因为太冷了，所以尽管是礼拜天，也没有多少人上街。

私^{わたし}のせいにするのはあまり (にも) ひどい。

把责任都推给我，这未免也太过份了。

あまりのうれしさに涙^{なみだ}が出る。

因为过于高兴而流出了眼泪。

二、名词 意思是：剩余、富余等。

あまりがある。

有富余。

生活費^{せいかつひ}のあまり^{ちよきん}を貯金する。

把生活费的余额存起来。

あまりの金^{かね}はいくらもない。

剩余的钱没有多少了。

十六^{じゅうろく}を五^ごで割^わるとあまり^{いち}は一。

十六除五，余数是一。

悲^{かな}しみのあまり^{びようき}病気になる。

过于悲哀〔原意是文言「悲痛之余」〕结果病了。

句型：「(喜、怒、哀、乐等情感形容词的名词形) + のあまり」——过于……而……。

三、(数词的)接尾词 意思是：多、余、有余。

二週間^{にしゅうかん}あまり^{りよう}旅行した。

旅行了两个多礼拜。